

# 米雇用指標好調でLME銅・NY銅は上昇 その他LMEはポルトガル懸念浮上でリスク回避売り

4日入電のLME銅相場はの前日比16.5ドル高の6,974ドルと続伸。米雇用指標の好調で後場上昇に転じて引けた。

NY銅相場は3.20セント高の317.40セントと反発。米雇用指標の好調を受け値を上げて引けた。

NYカーブは6,986~6,990.75ドルとなり、LME先物比15.38ドル高となった。

## 錫はポルトガル懸念のリスク回避に

LME錫相場は100ドル安の2万35ドルと反落。ポルトガル懸念のリスク回避で売られた。

## 鉛はポルトガル懸念で売られる

LME鉛相場は29.5ドル安の2,061ドルと反落。ポルトガル懸念で売られ下落した。

## 亜鉛はポルトガル懸念を受け下落

LME亜鉛相場は17ドル安の1,851.5ドルと反落。ポルトガル懸念を受け下落して引けた。

## アルミはリスク回避から下落

LMEアルミ相場は27ドル安の1,768ドルと反落。ポルトガル懸念でのリスク回避から下落。LMEアルミ合金は7.5ドル安の1,800ドル、北米特殊アルミ合金は12ドル安の1,880ドル。

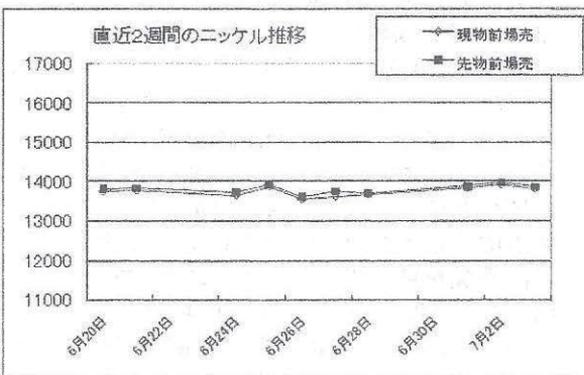
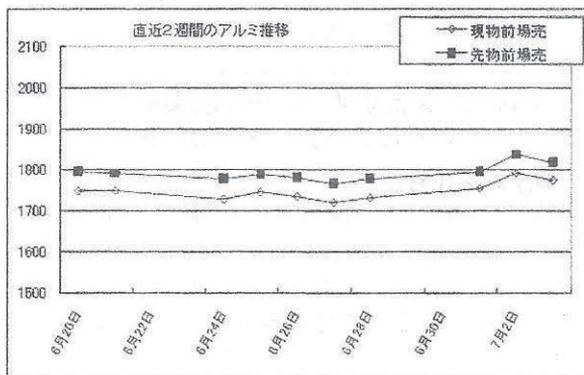
## ニッケルはリスク回避売りに

LMEニッケル相場は190ドル安の1万3,780ドルと反落。ポルトガル懸念でリスク回避売り。

## KLTM錫は30.8セント反落

採算値は2万6,000円安

KLTM錫は前日相場と比べ30.8セント安の63.650Mドルと反落。USDドルは100ドル安の2万ドルで出来高は30トン。Mドル/USDドルレート=3.1825とTTSレート100.93円で換算した採算値は2万6,000円安の202万3,000円、諸掛込みの採算値は2万6,000円安の218万3,000円。



## アルミスクラップ6月レポート及び7月見通し

橋本健一郎氏

■概況:前半は米格付け会社S&Pによるアメリカ国債の格上げ、4月の米小売売上高が+0.6%と予測を上回った事、日本の1-3月期のGDPが上方修正などプラス材料はあったものの、5月の米雇用統計で失業率が+7.6%と予測より悪かったこと、ADP雇用統計で雇用者数が13.3万人とこちらも予測以下だったことから1823ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約61ドル下落しての前半締めとなった。

後半は注目のFOMC後のバーナンキ議長発言で金融緩和縮小に近いとの認識や、5月のユーロ連合自動車販売台数が-5.9%と93年以来

の低水準だったことから一時1721ドルまで暴落するものの、ECBの金融緩和拡大発言や、イタリアの製造業PMIが2011年7月以来の高水準だったこと6月のNY連銀景気指数が+7.84%だったことを好感し下げ幅を圧縮。LME(現物後場)は1771ドルと前半締めから93ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-6.2%の73万2714台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-15.8%の26万6913台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+9.4%の7万9751戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出

はアルミ新地金が前月比-11.6%の129t、2次合金が+44.8%の1037t、スクラップが+15.5%の12786t。輸入は新地金が前年比-15.5%の11万1401t、2次合金が-10.9%の9万3692t、スクラップが-0.7%の716t、合金スクラップは-4.1%の3529tだった。

また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-6.1%の16万0203t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+0.9%の6万3616tであった。

■見通し:6月は中国の金融引締め観測と米国金融緩和と縮小観測に一喜一憂した月となった。中国中央銀行の金融引き締めで短期市場の金利が7%から14%まで上昇したことやFOMC後のバーナンキ発言で金融緩和と縮小が近いとの認識。

自動車生産は前年比-6.2%の9カ月連続マイナス。国内向け、輸出向け生産が共にマイナスへ。販売の方はついに二桁悪化前年比割れの-15.8%。貨物車、乗用車が共にマイナスだったことから新設住宅着工戸数は先月に続き9カ月連続増加、前年比+9.4%(前月比(季節調整済み)+14.5%)の7万9751戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲マンションが+33%と大幅増。アベニクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+0.9%と3カ月ぶりプラス。円安継続の割安感から国内塊への回帰のためとの見解。その他、圧延・押出品生産数は前年比-6.1%と悪化。圧延に関して、缶材は5月のビール系飲料の出荷は+3.8だったが缶メーカーの在庫調整から-6.1%。自動車向けは5月の新車販売台数が-6.9%による受注減やエコカー減税の反動、中国・アジアへの輸出減から-18.7%だった。

輸出は新地金が前年比-11.6%の129t、2次合金が+44.8%の1037t、スクラップが+15.5%

の1万2768t。内需旺盛に伴い用途が多い新地金は減少。それ以外は2次合金も含め 大幅な円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-15.5%の11万1401t、2次合金は-10.9%の9万3692t、スクラップは-0.7%の716t、合金スクラップは-4.1%の3529t前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、2次合金・スクラップは内需の一服から減少との見解。

アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+9.4%と9カ月連続増加と堅調なもの自動車は生産が依然9カ月連続 国内輸出ともにマイナスとなった。6月の国内販売台数も-15.8%と大幅悪化。為替が再び98-100円近辺で推移していることから輸出も期待できず先行きに黄信号。内需は様子見の一服モード。

LME価格に関しては、前月に続き欧州・そして特に中国の経済指標に今月は左右される。欧州に関してECBがなお金融緩和に言及しており一時的に金融危機が起こってもすぐに緩和の方向で一致、相場は持ち直すとの予測から上値は6月最高値付近の1900ドル。下値は中国当局やHSBCのPMI(製造業景況感指数)が前月共に景気判断の50を割ったことから警戒感が強く、仮に今月も50で割るようであれば暴落する可能性があるとの予測から直近安値付近の1700ドル。スクラップ価格についてはLME価格が上記中国指標により悪化する可能性や国内需の一服から5~10円程度の値下げがあるとの予測。

	3月	4月	5月
生産台数	82万3145台	74万7730台	73万2714台
前年比	-16.4%	-6.5%	-6.2%
	4月	5月	6月
販売台数	21万3165台	21万9099台	26万6913台
前年比	+2%	-7.3%	-15.8%
	3月	4月	5月
新設住宅着工数	7万1456戸	7万7894戸	7万9751戸
前年比	+7.3%	+5.8%	+9.4%
	3月	4月	5月
輸入			
新地金	9万5210t	13万4996t	11万1401t
前年比	-20.6%	-8.8%	-15.5%
2次合金	6万568t	9万0763t	9万3692t
前年比	-35.8%	+3.9%	-10.9%
スクラップ	730t	820t	716t
前年比	-43.3%	+20.4%	-0.7%
合金スクラップ	3054t	3805t	3529t
前年比	-20.1%	+1.4%	-4.1%

輸出	3月	4月	5月
新地金	249t	63t	129t
前年比	+28%	-25%	-11.6%
2次合金	959t	902t	1037t
前年比	-42.2%	+22.1%	+44.3%
スクラップ	13782t	13650t	12786t
前年比	+7.2%	+20.2%	+15.5%

